

令和2年（2020年）夏（6月～8月）の天候経過

令和2年9月1日
新潟地方気象台

1. 北陸地方の今夏（6月～8月）の特徴

【この夏は、かなりの多雨。6月はかなりの高温・かなりの多照、7月はかなりの多雨・かなりの寡照】
6月は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多く、かなり
の高温、かなりの多照となった。7月は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、かなりの多雨・
かなりの寡照となった。8月は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

2. 3か月平均（合計）と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	6～8月	6月	7月	8月
平均気温平年差 階級	+0.9℃ 高い	+1.9℃ かなり高い	-0.9℃ 低い	+1.7℃ 高い
降水量平年比 階級	137% かなり多い	114% 平年並	205% かなり多い	73% 少ない
日照時間平年比 階級	96% 少ない	127% かなり多い	40% かなり少ない	116% 多い

（注）北陸地方平均：北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したもの
6月の降水量平年比には、欠測がある相川のデータは含めない

3. 月別の天候経過

（6月）【前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日があり、前線の活動が活発となり大雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。かなり的高温・かなりの多照】

上旬は、期間のはじめは上空の寒気の影響で雨の降った日もあったが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。中旬は、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、前線の活動が活発となり大雨となった日もあった。中旬の降水量はかなり多かった。下旬は、期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多くなったが、期間の後半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなり、前線の活動が活発となり大雨となった日もあった。月の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。

（7月）【前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、前線の活動が活発となり、大雨となった日もあった。かなりの多雨・かなりの寡照】

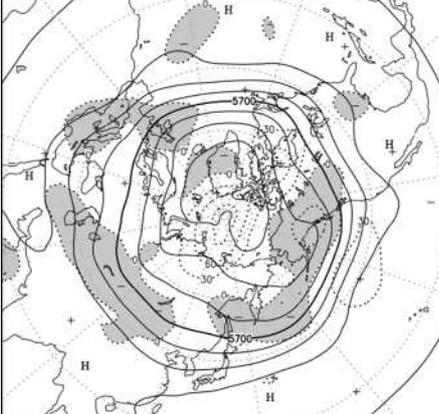
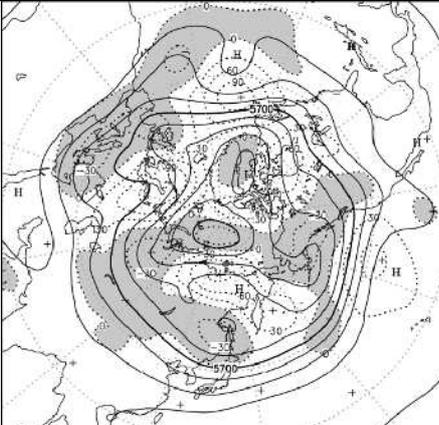
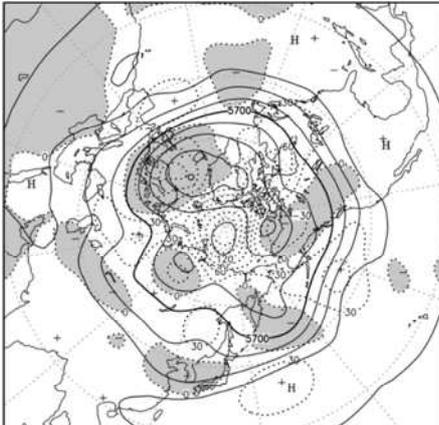
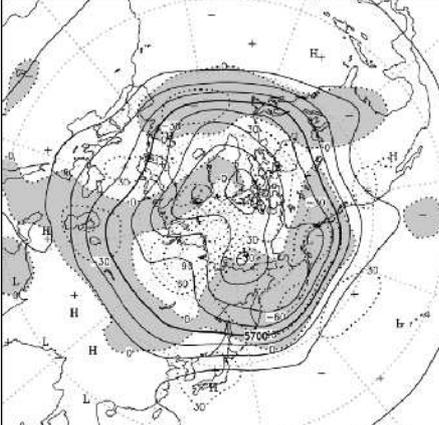
前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、梅雨前線の活動が活発となり、大雨となった日があった。このため、上旬、下旬の降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなり、上旬の日照時間は平年比25%となり、7月上旬として1961年の統計開始以来最も少なかった（それまでの1位は1974年の27%）。月の降水量はかなり多くなった。月の日照時間は平年比40%となり、7月として1946年の統計開始以来最も少なかった（それまでの1位は2003年の50%）。

（8月）【高気圧に覆われて晴れた日が多かった。】

上旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、期間の後半は前線や湿った空気の影響で雨の降った日があり、大雨となった日もあった。中旬は、期間の前半は日本海の低気圧や前線の影響で雨の降った日があり、大雨となった日もあった。期間の後半から下旬にかけては、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気が入りやすかったことから、下旬の気温はかなり高くなり、日照時間はかなり多くなった。

4. 大気の流れから見た今夏の特徴（500hPa 天気図）

等高度線（実線）の間隔は60m、ハッチ域（陰影部）は平年より高度が低い部分（負偏差域）、白抜き域は平年より高度が高い部分（正偏差域）にそれぞれ対応している。

	<p>6～8月</p> <p>日本付近の高度は平年より高く、亜熱帯高気圧は日本の南海上を中心に強かった。一方、オホーツク海付近の高度は平年より低く、日本付近は高度の南北差が大きく、偏西風が平年より強かったことを示している。</p>
	<p>6月</p> <p>バイカル湖付近からサハリン付近にかけては、平年より高度が低く、日本の北を低気圧が通りやすかったことに対応していた一方、亜熱帯高気圧が日本の南海上で西へ張り出し、東シナ海から本州付近にかけて平年より高度が高くなった。このため、日本付近には南からの暖かい空気が入りやすかった。</p>
	<p>7月</p> <p>日本の東海上から南海上にかけて平年より高度が高く、亜熱帯高気圧の勢力が強かった一方、朝鮮半島付近には気圧の谷があって、本州付近は西谷の場となっていた。梅雨前線は本州付近に停滞しやすく、南西から湿った空気が流れ込みやすかったため、しばしばその活動が活発となった。</p>
	<p>8月</p> <p>日本付近は亜熱帯ジェット気流が平年より北に偏っており、亜熱帯高気圧の勢力が強かったため、平年より高度が高く、全国的に暖かい空気に覆われやすかった。</p>

5. 参考資料

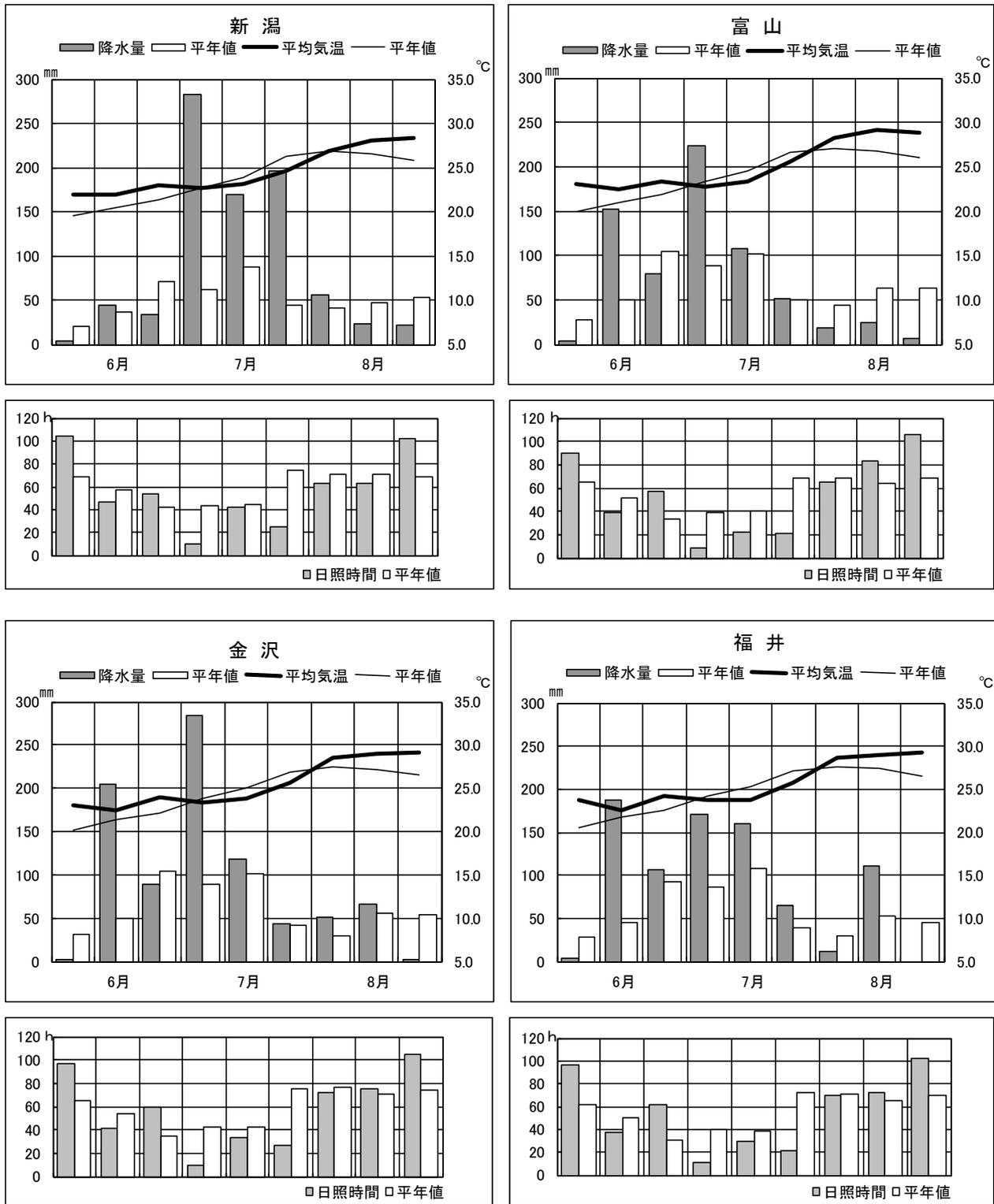


図1 新潟・富山・金沢・福井 旬平均気温・降水量・日照時間時系列

表1 北陸地方における6～8月の平均気温・降水量・日照時間

平均気温	6月		7月		8月		3か月平均	
	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)
新潟	22.3	+1.8(+*)	23.6	-0.7(-)	27.7	+1.3(+)	24.5	+0.8(+)
高田	22.3	+1.7(+*)	23.5	-1.1(-)	28.0	+1.7(+)	24.6	+0.8(+)
相川	21.3	+1.8(+*)	23.2	-0.4(-)	26.9	+0.9(+)	23.8	+0.8(+)
富山	23.0	+2.1(+*)	23.9	-1.0(-)	28.8	+2.2(+*)	25.2	+1.1(+)
伏木	22.3	+1.8(+*)	23.6	-1.0(-)	28.3	+1.8(+*)	24.7	+0.8(+)
金沢	23.2	+2.0(+*)	24.3	-1.0(-)	28.9	+1.9(+*)	25.5	+1.0(+)
輪島	21.6	+2.0(+*)	23.4	-0.5(-)	27.3	+1.6(+)	24.1	+1.0(+)
福井	23.5	+1.9(+*)	24.5	-1.1(-)	29.0	+1.8(+*)	25.7	+0.9(+)
敦賀	23.4	+1.7(+*)	24.6	-1.2(-)	29.2	+1.8(+*)	25.7	+0.7(+)
北陸平均		+1.9(+*)		-0.9(-)		+1.7(+)		+0.9(+)

降水量	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)
新潟	80.5	63(-)	649.5	338(+*)	101.5	72(O)	831.5	181(+*)
高田	115.0	79(O)	333.0	158(+)	97.5	65(O)	545.5	108(O)
相川	80.0]	×	474.5	275(+*)	115.0	92(O)	669.5]	×
富山	235.5	129(+)	382.0	159(+)	49.0	29(-)	666.5	113(+)
伏木	180.5	107(O)	369.0	158(+)	82.5	53(-)	632.0	113(O)
金沢	296.0	160(+)	445.0	192(+)	119.5	86(O)	860.5	155(+*)
輪島	85.0	52(-)	376.0	186(+)	189.5	122(O)	650.5	125(+)
福井	298.0	179(+*)	395.5	169(+)	122.0	96(O)	815.5	155(+*)
敦賀	237.0	143(+)	418.5	214(+*)	57.5	46(-)	713.0	147(+*)
北陸平均		114(O)		205(+*)		73(-)		137(+*)

日照時間	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)
新潟	205.6	122(+*)	75.3	47(-*)	227.3	108(O)	508.2	94(-)
高田	177.1	117(+)	30.5	20(-*)	236.1	121(+)	443.7	89(-)
相川	212.8	124(+)	78.5	48(-*)	225.7	105(O)	517.0	94(-)
富山	186.0	124(+)	51.5	35(-*)	253.7	126(+)	491.2	99(O)
伏木	200.4	132(+*)	63.0	41(-*)	247.7	121(+)	511.1	100(O)
金沢	198.0	130(+)	69.5	44(-*)	252.0	114(+)	519.5	97(O)
輪島	206.4	131(+)	70.5	45(-*)	218.3	106(O)	495.2	95(-)
福井	196.2	137(+*)	62.2	41(-*)	244.4	118(+)	502.8	101(O)
敦賀	168.4	123(+)	55.0	38(-*)	249.2	124(+)	472.6	98(O)
北陸平均		127(+*)		40(-*)		116(+)		96(-)

注1) 平年値は1981～2010年の資料から求めています。

注2) 階級欄の符号は、以下の事を示します。

(-) : 低い(少ない), (O) : 平年並, (+) : 高い(多い)

(-*) : かなり低い(かなり少ない), (+*) : かなり高い(かなり多い)

注3) 値の横に) や] がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示し、×は欠測を示します。

) 付きの値は正常の値とみなせますが、] 付きの値は欠測等が多いため正常な値と同等とはみなせません。

このため、統計日数(統計に用いた品質が十分な日数)を气象台等に確認して、品質を確かめてください。

表2 北陸地方における6～8月の階級別日数

	6月			7月			8月		
	最高気温	最低気温	最高気温	最低気温	最高気温	最低気温	最高気温	最低気温	
官署	30℃以上	35℃以上	25℃以上	30℃以上	35℃以上	25℃以上	30℃以上	35℃以上	25℃以上
新潟	4(1.1)	0(0.0)	0(0.0)	4(9.3)	0(0.8)	0(2.0)	23(17.9)	4(2.1)	11(5.5)
高田	5(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(13.2)	0(1.1)	0(0.8)	27(20.9)	7(2.9)	6(2.4)
相川	0(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(5.3)	0(0.3)	0(1.6)	15(12.8)	0(0.6)	11(5.6)
富山	7(2.4)	0(0.1)	0(0.0)	8(12.9)	0(1.6)	0(1.5)	30(19.0)	11(3.5)	13(4.4)
伏木	3(1.9)	0(0.1)	0(0.0)	5(11.4)	0(1.4)	0(1.9)	29(17.9)	4(2.6)	17(5.8)
金沢	6(1.6)	0(0.0)	0(0.0)	6(13.0)	0(0.7)	1(4.1)	29(20.5)	4(1.4)	23(8.8)
輪島	1(0.8)	0(0.0)	0(0.0)	3(8.3)	0(0.4)	0(0.6)	24(15.5)	4(0.7)	9(1.7)
福井	8(3.5)	0(0.0)	0(0.0)	9(15.3)	0(1.4)	1(3.1)	29(23.0)	12(3.8)	17(6.0)
敦賀	5(2.7)	0(0.0)	0(0.1)	4(14.2)	0(1.1)	1(6.3)	29(22.2)	6(2.5)	20(12.6)

注1) 真夏日：日最高気温が30℃以上の日 猛暑日：日最高気温が35℃以上の日

注2) いわゆる「熱帯夜」とは夜間の最低気温が25℃以上の日を指すので、ここに示した日数と異なることもある。
一般的な意味での熱帯夜日数の統計はない。

注3) カッコ()内は平年値

表3 北陸地方における6～8月の日最高気温

官署	最高気温 ℃	起日	極値更新	これまでの1位 ℃	統計開始年 月
新潟	35.7	8月11日	更新なし	39.9(2018/8/23)	1881/7
高田	36.7	8月10日	更新なし	40.3(2019/8/14)	1922/1
相川	34.8	8月10日	更新なし	38.1(2019/8/15)	1911/4
富山	38.9	8月11日	更新なし	39.5 (2018/8/22 及び 1994/8/14)	1939/1
伏木	38.0	8月11日	更新なし	39.7(1994/8/14)	1887/5
金沢	37.3	8月11日	更新なし	38.0 (1994/8/14 及び 1978/8/2)	1882/1
輪島	35.6	8月10日	更新なし	38.2(2000/7/31)	1929/5
福井	37.3	8月10日	更新なし	38.6(1942/7/19)	1897/1
敦賀	36.5	8月10日	更新なし	37.6(1918/8/13)	1897/10

表4 北陸地方における6～8月の累年極値・順位（3位以内）更新

◎月平均気温高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高（西暦） ℃	統計開始年	平年値 ℃
6	1	富山	23.0=	+2.1	23.0(1979)	1939	20.9
	2	高田	22.3	+1.7	22.7(1979)	1922	20.6
		相川	21.3	+1.8	21.9(1916)	1911	19.5
		金沢	23.2=	+2.0	23.3(1979)	1882	21.2
		輪島	21.6	+2.0	21.7(1979)	1929	19.6
	3	福井	23.5	+1.9	23.9(1979)	1897	21.6
敦賀		23.4	+1.7	23.9(1979)	1898	21.7	
8	2	金沢	28.9=	+1.9	29.3(2010)	1882	27.0
	3	富山	28.8	+2.2	29.3(2010)	1939	26.6
		福井	29.0=	+1.8	29.4(2010)	1897	27.2
		敦賀	29.2=	+1.8	29.8(2010)	1898	27.4

注) =はタイ記録を示す。

◎月降水量多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最大（西暦） mm	統計開始年	平年値 mm
7	1	新潟	649.5	338	511.8(1958)	1881	192.1
	3	相川	474.5	275	499.0(2013)	1911	172.3

◎月間日照時間少ない方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 h	平年比 %	これまでの最小（西暦） h	統計開始年	平年値 h
7	1	高田	30.5	20	65.2(2009)	1922	153.8
		相川	78.5	48	81.3(2006)	1911	164.2
		富山	51.5	35	64.3(1988)	1939	147.1
		伏木	63.0	41	69.1(1988)	1893	153.1
	2	新潟	75.3	47	50.4(1903)	1892	160.1
		金沢	69.5	44	67.8(1988)	1891	158.9
		福井	62.2	41	51.7(2003)	1898	149.9
		敦賀	55.0	38	46.5(2003)	1914	146.5

◎3か月降水量の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最高（西暦） mm	統計開始年	平年値 mm
6～8	2	新潟	831.5	181	842.3(1958)	1882	460.6

6. 天候情報発表状況

7月9日15時00分 長雨と日照不足に関する北陸地方気象情報 第1号

7月22日11時00分 長雨と日照不足に関する北陸地方気象情報 第2号

(注) この季節のまとめは、北陸地方の気象官署および特別地域気象観測所における気象観測値等をまとめたものです。
なお、資料は速報値であり後日の調査で修正されることがあります。